

令和8年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
「夜須高原ファミリーキャンプ①」報告書

- 1 趣 旨 小学生とその家族を対象に、様々な体験活動を通して、親子及び家族同士の交流を図り、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 後 援 福岡県教育委員会
- 4 期 間 令和8年6月27日（土）～28日（日） 1泊2日
- 5 会 場 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103）
- 6 対 象 小学生とその家族 15家族50名程度
- 7 参加者 15家族49名
- 8 日 程 6月27日（土） 活動① フィールドビンゴ（+ネイチャーゲーム）
活動② 杉皿アート
活動③ ほたるの観察
6月28日（日） 活動④ 野外炊飯カレーづくり

9 活動の実際



フィールドビンゴ（+ネイチャーゲーム）



杉皿アート



【野外炊飯カレーづくり】

10 感想

- なかなか自然の中で過ごす体験をする機会がないので、本当にありがたかった。
- 娘は今回初めてホテルを見て、最初は驚いて固まっていたが、とても印象に残ったようだった。
- 家族だけでは体験出来ないことを体験出来て良かった。
- ボランティアスタッフの方々の数も多く、皆さんとても親切で、安心して楽しく参加することができた。
- ホテルを3匹見ることができて、とっても嬉しかった。カレーは初めて作って、楽しかった。
- フィールドビンゴは自然の中を歩いて気持ちよく、カレー作りは子供たちの自主的に動く様子が見られ、とても良かった。
- カレー作りが思った以上に楽しかった。子供と作るのに最初は不安でしたが、一から自分たちで作ったカレーは本当に美味しく達成感があった。サポートもしっかりして頂けたので楽しく参加することができた。
- フィールドビンゴが楽しかった。自然の風景は、非日常でとてもよかった。
- 親子で楽しい時間を過ごせた。

11 成果

参加者アンケート結果より（回答者16名）

（1）事業全体の満足度

結果

- ・ 「満足」……………12名（75.0%）
- ・ 「やや満足」……………4名（25.0%）

成果

回答者16名全員が「満足」または「やや満足」と回答しており、参加者満足度の高い事業となった。

（2）各活動の評価

結果

活動名	「満足」	「やや満足」
フィールドビンゴ	15名（93.8%）	1名（6.3%）
杉皿アート	15名（93.8%）	1名（6.3%）
野外炊飯	15名（93.8%）	1名（6.3%）
ホテル観察	11名（68.8%）	5名（31.3%）

成果

全ての活動で高い評価を得ており、参加者のニーズに合致した活動を提供することができた。

（3）体験活動への意識

結果

■ お子様にとって体験活動への参加はどの程度必要だと思いますか

- ・ 「とても必要」「やや必要」……………16名（100%）

■ 今後も体験活動へ参加させたいと思いますか

- ・ 「とても思う」……………16名（100%）

成果

回答者全員が体験活動の必要性を認識するとともに、今後も参加させたいと回答しており、本事業を通して体験活動の重要性を広く普及・啓発するという事業目的を十分に達成できたものと考えられる。

（４）参加者の感想

主な感想

- ・ 家族だけでは体験できないことを体験できて良かった。
- ・ なかなか自然の中で過ごす体験をする機会がないのでありがたかった。
- ・ 親子で楽しい時間を過ごせた。
- ・ 家族の最高の思い出ができた。

成果

今回の事業を通じ、親子で協力しながら活動する機会や、自然と触れ合う機会を提供することができた。

（５）今後のキャンプでやってみたいこと

- ・ 川遊び
- ・ キャンプファイヤー
- ・ 魚つかみ・やまめつかみ
- ・ ピザづくり
- ・ 花火

成果

「夏ならではのイベント×自然」を楽しみたいという参加者ニーズを把握することができ、今後の教育事業を企画するうえでの参考となる結果が得られた。

12 課 題

（１）家族間の交流促進

現状

「今回のキャンプで家族同士の交流はできましたか」という設問の回答結果は以下のとおりであった。

- ・ 「できた」……………9名（56.3%）
- ・ 「ややできた」……………4名（25.0%）
- ・ 「あまりできなかった」…3名（19.0%）

課題

「できた」「ややできた」と回答した参加者が13名（81.3%）であった一方、「あまりできなかった」と回答した参加者も3名（19.0%）見られた。家族同士の交流は本事業の重要な目的の一つであることから、参加者同士が自然に関わる機会をさらに充実させる必要がある。

改善の方向性

今後は、複数の家族が協力して取り組むプログラムや、自然な会話・交流が生まれるような活動を取り入れるなど、家族同士が交流しやすい機会や環境の充実を図る。